

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770101580		
法人名	医療法人 社団 扇寿会		
事業所名	グループホーム なでこの丘		
所在地	金沢市馬替2丁目7番1号		
自己評価作成日	令和 7年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和8年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 tsunagu
所在地	石川県野々市市高橋町9-41
訪問調査日	令和7年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・面会の方、来居される方に対して、明るく挨拶するように心掛けている。 ・新型コロナウイルスやインフルエンザの影響で外出の機会は少ないが、少しでも気分転換が図れるよう、フロア行事やレクリエーションに取り組んでいる。 ・季節を感じて頂けるような手作りの展示を行っている。 ・入居者とご家族の面会はフロア外(玄関)で人数と時間制限をして行っている。 ・来居の難しいご家族には電話や手紙で近況報告をする等連絡を密にとるように心掛けている。 ・玄関に写真を展示したり、広報誌を発行し、活動の様子や季節の行事写真をご家族にも見て頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し共有している。毎年フロアごとに理念を踏まえた目標を作成し、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所ですれ違う方には必ず挨拶をしている。新型コロナウイルス、インフルエンザ感染防止策の為、外部の方との交流は控えている。外食行事などはお弁当やお寿司をテイクアウトして提供している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は介護予防教室や地域のボランティアに場所を提供し、職員と共に入居者の方も交流していたが、新型コロナウイルスの流行後から控えている。今後は状況を見て地域に貢献できるよう努めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実際や評価への取り組み状況について報告したり、意見をもらいサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、市の担当者に意見を聞いたり、それ以外は市役所に直接電話し、疑問点を聞いたり、アドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員はパートを含め、内外の研修に参加したり、資料を読み、正しく理解している。スピーチロックには特に気を付けるように皆で意識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、知識を深めるとともに、自分の行動を振り返る機会を持っている。お互いに注意ができるよう「風通しの良い環境づくり」に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している方がおられる。成年後見人の方と電話連絡をしたり、直接面接し、コミュニケーションを取り、情報交換を図っている。今後も研修等に参加し、より多く活用できるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、必ず契約に関する説明を納得されるまで行なっている。疑問や質問があればその都度答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前家族会を年2回開催しており、その集いの場で意見や要望を話し合っていたが、現在は中止となっている為、担当者会議の場を利用し、意見や要望を聞き、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週月曜日の合同カンファレンスや毎週木曜日の情報交換で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会があり、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課の自己評価表を全職員に記入してもらっている。努力したり、頑張っている職員に対してほめたり、一言声をかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には新人オリエンテーションをし、チェックリスト作成し、チェックしている。また、毎月1回の施設内研修はパート職員にも参加してもらっている。職員には施設外研修も受講するように勧め、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍から交流の機会は減っているが、徐々に市のグループホーム部会や他の研修などに参加した時は情報交換をし、良いところは吸収し、日々のケアに活かすように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	落ち着いてゆっくり話せる環境を整え、時間をかけて話を傾聴し、本人の思いに寄り添うよう努力している。言葉で伝えられない方には、表情や動作を観察して思いやり、寄り添うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を受け止め、ねぎらいながらよい関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、まず一番に必要としている支援を見極め、ホームだけでなく、他のサービス利用も考えられる事も話しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	親しみの中にも尊厳をもって接するよう気を付けている。職員は親しく話を聞く中で色々なことを教えて頂きながら、支えあって生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人、それぞれの思いを受け止め、大切な家族がホームに入居されている事に安心して頂けるよう面会時に近況報告を行い、共に本人を支えあう良い関係が作れるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴を深く知る努力をしている。少しでも長く覚えていられるよう、繰り返し話題に出すなどしている。家族や知人の面会時は感染防止に努めながら、オンライン面会やアクリル板越しの面会をして頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話ができるよう、ホール席を考慮している。時には職員が間に入ってコミュニケーションが図れるよう、手助けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の場所で出会えば、挨拶をして近況をうかがっている。また、困りごとなどあれば相談に乗るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向・希望を大切にしている。できる限りマイペースに過ごして頂けるよう考慮している。また、思いを表出できない方には、傍らに寄り添い、表情や動作等を観察し、思いを把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から聞き取り、アセスメントし、基本情報として作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	注意深く観察し、状態を総合的に把握している。少しの変化でも皆へ報告し、現状の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本位の介護計画を作成、実践し、3か月ごとにモニタリング評価をしている。変化が生じれば担当者会議を行い、現状に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の変化・言動はカルテに記録し、1ヶ月毎のショートサマリーで分かりやすく記録している。ケア実施記録表では個別ケアを明確にし、毎日実施、評価している。各フロアの連絡ノート、毎週木曜の情報交換で情報共有し、計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月ボランティアによるお茶会や、フロアごとの喫茶を開催している。手作りお菓子を提供したり、入居者の好みの飲み物を準備し楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署と協力しながら、利用者にも参加してもらって避難訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の訪問診療を月に2回受けている。個別にかかりつけ医がある方は基本のご家族が付き添い受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は日中ほぼ常勤している、些細なことでも気軽に相談し、健康管理などの支援をしている。緊急の場合もすぐに対応できるよう携帯電話を使用し、迅速に対応し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は早期に退院できるよう、医師や、病院看護師と適宜電話で情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃のより本人の思いを知ること努め、本人・家族の思いが尊重できるよう取り組んでいる。日々の変化を察知し早期に家族へ情報提供及び訪問医へ相談している。重度化した場合、本人・家族の意向を再確認し、ホームとして出来ること、出来ないことを話し合い、確認する。主治医と連絡を密にとり、チーム一丸となり支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、職員全員がそれに沿った行動と応急手当ができるよう周知し、勉強している。玄関にAED設置し、誰でも使えるよう研修もしている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	各フロアPHSで即連絡し合えるようになっている。緊急連絡網もあり、行方不明時などはマニュアルに沿って行動し、老健にも連絡し、応援体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力病院に南ヶ丘病院、施設に老健なでこの丘があり、バックアップが十分に確保されている。各フロア月2回の訪問診察や定期検診をしている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	3ユニットで各フロア1名ずつ夜勤者がおり、緊急時PHSで連絡を取り合い応援体制をとっている。また、ウェブカメラも設置しており、他のフロアでも様子を見守ることもできる。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも参加してもらい、消防(災害)訓練を年1回行っている。緊急連絡網やマニュアルが各フロアにあり、いつでも閲覧できるようにしている。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時のマニュアルを作成しており、災害時の備蓄品も準備している。年1回見直し、点検している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	穏やかな声かけを心掛け、特にトイレ誘導時などは周囲に配慮し、さりげない誘導や介助、プライバシーを確保するようにしている。尊厳擁護委員会を中心に研修に参加し、間違った対応をする職員がいればお互いに注意できる関係ができています。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がなんでも言える雰囲気作りに努めている。希望を引き出せる言葉かけを工夫し、思いを汲み取る努力をしている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添って、決して無理強いしないよう気を付けている。マイペースで過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝ホットタオルで洗顔し、本人の好みの洋服を準備している。汚ればすぐ洗濯し、清潔で気持ちよく生活できるよう支援している。月2回の出張理容サービスがあり、希望する方は利用して頂いている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助が必要な方には、メニューを伝えながら介助している。嫌いなものは無理強いせず、楽しい時間になるよう心掛けている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小盛食・ミキサー食・粥など、その方にあった食事を提供している。毎食の摂取量は三測表へ記入している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自歯の人は歯磨きをしてもらい、義歯の人も洗浄と、うがいを勧めている。自分で行うことはして頂き、見守っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの訴えのできない人は、動き方で察知し、誘導している。カバータイプの方は、1日の尿量を把握し、質の良いパットを使用して枚数を減らしている。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病歴を知り、食事と水分補給や軽い運動(ラジオ体操、廊下歩行など)をしてもらうなど配慮している。便秘症の方は医師の診察を受け、薬の処方などしてもらっている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各フロアごとに曜日は決まっているが、日が重ならないように沸かしている。毎日どこかのフロアで沸いている。本人が希望すれば他のフロアでも入浴できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床が遅い方は朝食時間をずらしたり、昼食後は午睡したり、個人のペースで休めるようにしている。室温・湿度計を各部屋に設置し確認している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報交換・薬局からの指導書・看護師の指示にて薬の情報は理解している。常に与薬後の状態観察をし、異常の早期発見に努めている。薬剤師居宅管理指導を利用しているので薬に関して、薬剤師に相談したり、アドバイスをもらっている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方、お話好きな方など、一人ひとりの好みを知り、楽しめるようにしている。季節の行事、レクリエーションにも参考にし、取り入れている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外泊・外出などは感染症への注意事項を伝えた上で、本人の希望に沿って支援している。天気の良い日などは、職員と共に近所へ散歩に出かけたりしている。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は職員と一緒に買い物も行っていたが、現在は感染防止のため人込みを避け、控えている。認知症も進み介護度も重くなった方は自己管理が難しくなったため、小遣い帳を作り本人の希望に応じて職員が買い物代行し、ご家族に確認して頂いている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があれば、希望に応じて本人とお話して頂いている。自分で携帯電話で自由にお話をしている方もいる。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計を確認し、エアコンや加湿器で調節している。常に換気をして、サーキュレーターで空気の流れを作っている。壁には手作りの季節の展示がある。フロアの見やすいところにカレンダーを掲示してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア全体が広く、歩行できる方はサンルームに行き、外を眺めたりしている。また、車いすの方も自操できる方は自由に動きやすいように環境整備をしている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や家族写真等、本人が安心して生活できるものを持ち込んでいる。(ソファ、仏壇、小テーブル等)		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は手すりにつながっている。廊下は環境整備されており、安心して歩行できる。		